

「はやぶさ2」が持ち帰った「リュウグウ」のサンプルが本学に到着
IUCA 2021 Presidents' Meetingに資金総長、横田理事・副学長が出席
薬学研究院 原島秀吉教授が国際薬剤師・薬学連合(FIP)のHøst Madsen Medalを受賞



全学ニュース

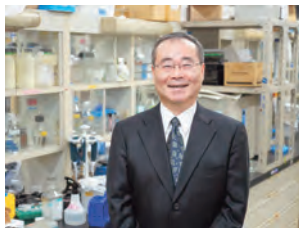
- 1 「はやぶさ2」が持ち帰った「リュウグウ」のサンプルが本学に到着
- 2 第3回 定例記者会見を開催
- 3 北大フロンティア基金
- 5 令和3年度第1回新渡戸カレッジメンターフォーラムを開催
- 6 学生に対して食料支援を実施
- 7 令和3年度北海道大学レーン記念賞受賞者を決定
- 7 令和3年度北海道大学宮澤記念賞受賞者を決定
- 8 「北大牛乳」が札幌市内で、新ブランドとして展開中
- 9 MIRAI Research & Innovation Week が開催
- 10 寶金総長、横田理事・副学長が、IUCA 2021 Presidents' Meetingに出席
- 11 オンライン配信「KNIT a Network! ロールモデル座談会 大塚賞スペシャル」を開催

部局ニュース

- 12 文学研究院FD「学生指導とハラスメント行動をめぐる本学の現況について」を開催
- 13 経済学部が成績優秀者表彰式を挙行
- 14 薬学研究院 原島秀吉教授が国際薬剤師・薬学連合（FIP）のHøst Madsen Medalを受賞
- 15 附属図書館職員が令和3年度国立大学図書館協会賞を受賞
- 16 2年次学部学科移行生のコミュニケーション環境整備としてオンライン交流・歓迎会を実施
- 17 理学研究院・先端生命科学研究院合同FD研修「米国での大学院システム」について
- 18 総合博物館で2020年度ミュージアムマイスター認定式を開催



経済学部成績優秀者表彰式を挙行



薬学研究院 原島秀吉教授が国際薬剤師・薬学連合（FIP）のHøst Madsen Medalを受賞



オンライン配信「KNIT a Network! ロールモデル座談会 大塚賞スペシャル」を開催



文学研究院FD「学生指導とハラスメント行動をめぐる本学の現況について」を開催

お知らせ

- 19 「北海道大学の役職員の給与等の水準（令和2年度）」の概要について
- 20 令和2年度北海道大学外国人留学生後援会の決算

博士学位記授与 21

諸会議の開催状況 24

学内規定 25

人事 26

- 27 新任教授紹介
- 28 新任部課長等紹介

訃報

- 29 名誉教授 山本 真史 氏
- 29 准教授 小華和 柁志 先生
- 30 名誉教授 谷口 博 氏

資料

- 31 令和2年度卒業・修了者の就職等状況一覧



令和3年度国立大学図書館協会賞の受賞



総合博物館で2020年度ミュージアムマイスター認定式を開催

表紙：「はやぶさ2」が持ち帰った「リュウグウ」のサンプルが本学に到着（関連記事1頁に掲載）

裏表紙：キャンパス風景⑩ 大野池（北12条西8丁目付近）

■全学ニュース

「はやぶさ2」が持ち帰った「リュウグウ」のサンプルが本学に到着

6月21日（月）、探査機「はやぶさ2」が採取した小惑星「リュウグウ」のサンプルが、本学に到着しました。サンプルは、今回の初期分析の総括を務める東京大学の橋 省吾教授から、本学理学研究院の塚本尚義教授に手渡されました。今回到着したサンプルは、太陽系の起源と進化を解明することを目指し、およそ30年かけて開発した「同位体顕微鏡」を駆使して、分析が進められます。

サンプルを受け取った塚本教授は、広報課のインタビューに対し「玉手箱が開いたところ。これから何が入っているか隅から隅まで調べていくので、何が出てくるかその都度紹介したいと思っています。楽しみにしててください」と期待を込めて語りました。

インタビュー動画は以下のURLからご覧いただけます。

https://www.youtube.com/watch?v=XqZslhMt_0Y



参考：

- ・2021年夏、「はやぶさ2」が採取した「リュウグウ」のサンプルが北大にやってくる
～理学研究院 塚本尚義教授にインタビュー～



- ・いいね！Hokudai
https://costep.open-ed.hokudai.ac.jp/like_hokudai/article/11870



(総務企画部広報課)



到着したばかりのサンプルを囲む研究グループと塚本教授（写真右）と橋教授（写真左）

第3回 定例記者会見を開催

6月17日（木）、本学の特色ある教育研究活動や運営状況等を社会に向けてわかりやすく発信することを目的とした「定例記者会見」をオンライン形

式で開催しました。吉見 宏理事・副学長（広報室長）の進行のもと、工学研究院 北島正章准教授、獣医学研究院 今内 覚准教授、前川直也特任助

教が発表し、北海道教育庁記者クラブ加盟社等から13名の参加がありました。発表・報告内容は以下の通りです。

16：00～17：00 オンライン開催（会場：北海道大学百年記念会館）

発表事項（発表者）

- ・下水から見える新型コロナウイルス感染症流行状況
～下水疫学調査によるウイルス感染症流行及び新規変異株早期検知を目指す～
工学研究院 准教授 北島 正章（発表者）
- ・北海道大学動物医療センターにおける臨床研究のご案内
～続報・肺転移のあるイヌ悪性黒色腫に抗PD-L1抗体が有効であることをはじめて実証～
獣医学研究院 准教授 今内 覚（発表者）
特任助教 前川 直也



定例記者会見配信会場



発表を行う今内准教授



当日の発表者と吉見 宏理事・副学長
（左から北島准教授、吉見理事・副学長、今内准教授、前川特任助教）



Zoomを用いた北島准教授の発表の様子

北大フロンティア基金

北大フロンティア基金は、本学の創基130年を機に、教育研究の一層の充実を図り、これまで以上に自主性・自立性を発揮して大学としての使命を果たすため、平成18年10月に創設しました。

奨学金制度の充実や留学生への支援などの学生支援を中心に、研究支援、学部等支援など様々な事業を行っており、期限を付さない、息の長い募金活動をする事としています。

皆様には基金の趣旨にご賛同いただき、ご協力をお願いします。

北大フロンティア基金情報
基金累計額（6月30日現在）

30,490件 5,539,715,335円

6月のご寄附状況

法人等12社、個人689名の方々から43,380,160円のご寄附を賜りました。

そのご厚志に対しまして感謝を申し上げますとともに、同意をいただいているの方々のご芳名、銘板の掲示について掲載させていただきます。（五十音別・敬称略）

寄附者ご芳名（法人等）

アジア航測株式会社、クボタ環境サービス株式会社、株式会社クレタ、有限会社札幌庭園工業、株式会社タクマ、柏楊印刷株式会社、株式会社プランテック、株式会社北洋銀行、北海道厚生農業協同組合連合会、NPO法人 北海道脊椎脊髄外科研究グループ

寄附者ご芳名（個人）

相川 一馬	合川 正幸	青木 至	青木 皐	青木 俊介	青木 真哉	青木 良仁	阿部 雅史
飯間 雅文	石井 薫	石井 一英	石井 哲夫	石井 誠	石川 洋	石郷岡政広	石山 喬
磯貝 忠子	板垣 雅	伊藤 智恵	稲田奈津子	稲葉恵一郎	乾 賢	猪股 路子	井原 博
入澤 秀次	岩崎 克巳	岩花 舞子	宇賀神若人	宇野 家正	蛭澤 智	縁記 和也	大城 純市
大塚 宣樹	大原 正範	大平 卓治	大山 昭憲	岡澤 好高	岡田 和廣	岡田 直人	奥田 英信
尾崎 敬介	尾崎みどり	押野 均	押野 嘉雄	小田原一史	越智さと子	桂川 尚文	金川 眞行
金山 達也	金子 昇央	上條 直樹	上村 明男	上山 俊	河上 裕美	河淵 則良	河本 充司
北野 和博	城戸 佳織	衣川 暢子	葛綿 則子	久保田 充	熊谷 優	倉持 允昭	児玉 陽子
小中 幹雄	小林 賢人	小林 敬	近 祐次郎	西城 一翼	齊藤 晋	齋藤 久	坂岡 智美
坂倉 雅夫	坂本 大介	櫻木 正彦	笹野 貢	佐藤 恒久	佐藤 文夫	佐野 守平	三升畑元基
三波 篤郎	志済 聡子	柴田 清	澁谷 斉	島 佳隆	嶋田 琢磨	嶋村 幸子	志村 謙介
菅原 新也	菅原 保孝	杉江 和男	杉田 眞一	杉田 護	鈴木 孝	鈴木 貴之	砂田 正博
関崎 勉	関根 猛	瀬名波栄潤	高杉 佳宏	高津 隆紹	高野 一男	高橋さおり	竹内 義治
多田 早織	田所 保	田中 稲藏	田中 一哉	田中 敬基	田中 諒	田邊 卓士	土家 琢磨
土屋 裕	寺澤 睦	戸田 純子	戸谷田剛秀	豊田 威信	内藤 有恒	中塚 英俊	長縄 豊明
長野 剛志	永見 誠	中村 楯夫	那須 信江	成木 嘉美	西 聡	西川 治良	西田 実弘
野口 豪	野坂 素子	野間 啓	乗本早和子	長谷川裕久	花田 秀一	林 弘嗣	原口奈々子
原田小百合	春川 幸代	番場 堅	平塚あゆみ	廣木 誠	広島 基	福士 幸治	福島真太郎
福田 浩二	福永 悟郎	細田 朋彦	堀川 幹子	堀口 健雄	前田 博	政氏 伸夫	増山 邦彦
町田 貴裕	松田 健一	松原 謙一	廻 英俊	三上 博光	三島 俊彦	水木 伸一	三角 幸子
溝畑 茂治	三田 匡彦	美馬 香織	宮崎 千春	宮田 信幸	宮田 博己	宮村 紘	村上 泰一
村上 伸広	村上 幸夫	村田 寛菜	村松 洋	百村 千絵	八重樫幸一	矢ヶ崎啓一郎	矢倉 宏範
矢嶋 剛	山口伊久行	山下恵美子	山田 元	山本 育子	山本 克博	湯次 佳子	横山 考
吉田 広志	吉本 雅人	米田 穰	渡邊伸一郎				

銘板の掲示（20万円以上のご寄附）

（法人等）

クボタ環境サービス株式会社，株式会社タクマ，株式会社プランテック

（個人）

石川 洋，北野 和博，笹野 貢，澁谷 斉，高津 隆紹，三田 匡彦，山田 元

ご寄附のお申し込み方法

北大フロンティア基金ホームページの「教職員の方によるご寄附について」にアクセスして下さい。

<https://www.hokudai.ac.jp/fund/howto-staff.html>

①給与からの引き落とし

ホームページから「北大フロンティア基金申込書（兼・給与口座からの引落依頼書）」をダウンロードし，ご記入の上，卒業生・基金室基金事務担当に提出してください。

②郵便局または銀行への振り込み

卒業生・基金室基金事務担当にご連絡ください。払込取扱票をお送りします。

③現金でのご寄附

寄附申込書に現金を添えて，卒業生・基金室基金事務担当にご持参ください。

申込書は，ホームページから「北大フロンティア基金申込書（教職員現金用）」をダウンロードしてご記入いただくか，卒業生・基金室基金事務担当にもご用意していますので，お越しただいてからご記入いただくことも可能です。

④クレジットカード決済・コンビニ決済でのご寄附

北大フロンティア基金ホームページ

(<https://www.hokudai.ac.jp/cgi-bin/fund/bin/xRegist.cgi>) の寄附申し込みフォームから申込をお願いします。

北大フロンティア基金に関する問い合わせ 卒業生・基金室基金事務担当（学内電話 2017）
--

令和3年度第1回新渡戸カレッジメンターフォーラムを開催

新渡戸カレッジの大学院教育コースでは、6月19日（土）に令和3年度第1回新渡戸カレッジメンターフォーラムをオンラインにて開催しました。

社会の多様な分野で活躍する方々にメンターに就任いただき、新渡戸カレッジ生のキャリア意識の醸成、社会的視野の広がり及び人的ネットワークの形成にご協力いただいています。

メンターフォーラムは、新渡戸カレッジ生が大学院修了後のキャリアを念頭に、カレッジ生自身にとって身近なロールモデルであるメンターとの交流を通じ、自身のキャリアパスをより具体的に考える機会として、夏と冬の年

2回開催しています。

当日は、第1部として講演会を行い、『キャリアパスを考える』のテーマで、8名のメンターに、ご自身のキャリアや実社会における経験に基づくアドバイス等について英語で講演いただきました。新渡戸カレッジ生は、多様な分野でグローバルに活躍する先輩たちの話に刺激を受け、熱心に耳を傾けていました。

続く第2部では、新渡戸カレッジ生が各メンターに自由に質問し対話を行う交流会として実施しました。新渡戸カレッジ生は大学における研究活動及び今後本格化する就職活動等について

積極的に質問し、アドバイスを得ることができました。

本メンターフォーラムを通して、新渡戸カレッジ生は、大学院生活をどのような姿勢で学修・研究に取り組み、将来のキャリアデザインに繋げていくことができるか等について、貴重な洞察を得ることができたようです。

今回のメンターフォーラムは、8名のメンターのご協力を得て実施しました。ご協力いただきました皆様に改めて御礼申し上げます。

(学務部教育推進課)



メンターと新渡戸カレッジ生

学生に対して食料支援を実施

本学では、6月4日（金）に函館キャンパスの学生200名、同月25日（金）に札幌キャンパスの学生1,000名、7月2日（金）に札幌キャンパスに家族を伴い来日している留学生75名を対象に、食料支援を実施しました。

食料支援の実施にあたっては、北海道大学フロンティア基金を原資とし、北海道大学生生活協同組合の協力、東洋

水産株式会社、エスコック株式会社の協賛を得られました。

本学は、北海道外からの入学者が6割を超えており、親元を離れ一人暮らしをしている学生が多く、家族からの仕送りやアルバイト収入が減少している学生が多いことから、学生支援の一環として実施したものです。

食料の配付にあたっては、三密回避

のため、事前に希望者の募集を行い、受取時間を指定して行いました。

実施アンケートを行った結果、支援への感謝の他「今後も実施して欲しい」との意見が多かったことから、今後も同様の支援を検討していくこととしています。

（学務部学生支援課）



支援物資等



函館キャンパスの様子



札幌キャンパスの様子



留学生への支援の様子

令和3年度北海道大学レーン記念賞受賞者を決定

令和3年度北海道大学レーン記念賞を7名の学生が受賞しました。

レーン記念賞は1・2年次の英語の成績が特に優秀な学生を表彰する制度で、昭和40年から「レーン記念奨学金」として始まり、平成9年からは「レーン記念賞」と名を改め、今回を含め403名の学生に授与されています。

今年度は新型コロナウイルス感染防止のため授賞式を取り止め、受賞者に、賞状、記念メダル、図書カード及び外国語教育センターからの記念品として北大オリジナルDVD英語教材を贈りました。同封した山口 淳二理事・副学長からの挨拶文には、「身につけた英語力により一層磨きをかけ

て、国際性豊かな人間として周囲から親しまれる社会人を目指してください」との激励の言葉が記載されました。

(学務部学生支援課)



賞状及び記念メダル

受賞者

文学部	鈴木 乙 葉
法学部	伴 野 有 里
法学部	縄 田 健 祥
法学部	宮 澤 優 作
理学部	栗 原 恭 子
医学部	木 村 公 美
農学部	武 田 信 悟

令和3年度北海道大学宮澤記念賞受賞者を決定

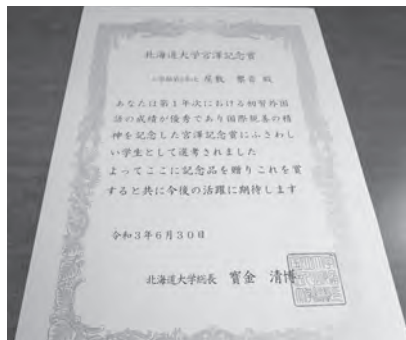
令和3年度北海道大学宮澤記念賞を、10名の学生が受賞しました。

宮澤記念賞は、1年次に履修した外国語科目のうち、ドイツ語、フランス語、ロシア語、スペイン語、中国語及び韓国語の成績が特に優秀な学生を表彰する制度で、今回が第7回目の表彰となりました。

今年度は新型コロナウイルス感染防止のため授賞式は取り止め、受賞者に賞状及び図書カードを郵送しました。同封した山口 淳二理事・副学長からの挨拶文には、「皆さんの今後益々の活躍・精進を期待しています」との激

励の言葉が記載されました。

(学務部学生支援課)



宮澤記念賞賞状

受賞者

文学部	葛 綿 みどり
文学部	武 居 比呂馬
文学部	石 俣 カン
法学部	高 橋 杏 菜
法学部	山 下 智 史
法学部	大 野 万里奈
法学部	小 澤 美楓悠
法学部	渡 辺 聖 菜
経済学部	梶 野 智 暉
工学部	屋 敷 黎 音

「北大牛乳」が札幌市内で、新ブランドとして展開中

北方生物圏フィールド科学センターの農場で飼育されている、牛から搾った牛乳、「北大牛乳」をご存知でしょうか？夏は放牧により牧草を餌にするため、あっさりとした爽やかな風味に、冬は大学内で作られるトウモロコシや干し草を餌にするため、濃厚な風味になる等、季節により変化することが特徴です。

この牛乳は、北海道大学構内にある北大マルシェCafé & Laboを中心に活用・販売されていますが、現在札幌市内2か所でも楽しむことができます。

まずは「京王プレミアホテル札幌」です。北大正門から歩いて3分ほどにある京王プレミアホテル札幌では、ホテルの朝食を通じて、「“まだ知らない”北海道を朝食から」と題した年間プロジェクトを2021年度から開始し、その第一段として北大牛乳が選ばれました。

北大牛乳が洋風にアレンジされ、北海道の農場の牛と牧草ロールをイメージした「牧草ロールケーキ」と、北大牛乳の白さを生かし、新玉ねぎと合わせた「白いスープ」を朝食ブッフェにて提供されています。朝食ブッフェのご利用は宿泊者のみならず一般の方もご利用いただけます（20食限定）。機会がありましたら是非、ご利用ください。

次に、地下鉄東西線西28丁目駅から3分ほどの場所にある「RITARU COFFEE」です。同店では、6月から北大牛乳アイスを使用した「アフォガートゼリーフロート」を夏季限定商品として販売を開始しました。京極の水を使用したオリジナルブレンドのコーヒーゼリーに山中牧場の牛乳をそそぎ、北大牛乳アイスクリームをのせ、仕上げに同店で焙煎したダークローストの濃厚コーヒーエキスをかけた、北

海道産の素材にこだわった1杯です。

テイクアウトも行っておりますので、円山付近にお越しの際には、散歩のお供にぜひご賞味ください。また、イトイン限定で「北大アイスとリタルゼリー」も同じく6月からの新商品として販売が開始されていますので、こちらもあわせてお試しください。

産学・地域協働推進機構では本学のブランド情報を当機構ホームページのトピックスにて、月に1回お知らせする連載を開始しました。毎月中旬に更新予定ですので是非ご覧ください。

6月公開分はこちら：

<https://www.mcip.hokudai.ac.jp/topics/details--id-119.html>

※写真提供：北海道大学広報課

（産学・地域協働推進機構）



牧草ロールケーキ



左・アフォガートゼリーフロート（夏季限定）
右・北大アイスとリタルゼリー

MIRAI Research & Innovation Week が開催

本学が加盟する国際コンソーシアム“MIRAI”のメインイベントであるMIRAI Research & Innovation Weekが、6月7日（月）～11日（金）の1週間に渡りオンラインで開催されました。“MIRAI”は、日本とスウェーデンの連携強化及び学術交流の促進を目的として2017年に発足し、現在本学を含む日本側参加大学8校、スウェーデン側参加大学11校の計19校が、Ageing, AI, Innovation & Entrepreneurship, Materials Science, Sustainabilityの5分野において活動しています。

今回のMIRAI Research & Innovation Weekは、スウェーデン側の加盟校であるヨーテボリ大学の主催で開催されました。初日は、開会式に続いて加盟校の代表者が一堂に会するGeneral Assembly Meetingが行われ、今後のMIRAIの活動について、研究面、教育面、その他様々な角度から活発な議論が交わされました。本学からは横

田 篤理事・副学長が出席し、海外との教育交流の成功事例としてHokkaido Summer Instituteを取り上げ、スウェーデンとの教育交流での活用を提案しました。この他、各分野におけるデジタルポスターセッションが並行して行われ、本学からは工学研究院の渡部典大助教（Sustainability分野）と医学院博士課程1年のWen Haoさん（Ageing分野）の2名が発表者として参加しました。

2日目からは、各分野でのパラレルセッションが行われました。各セッションでは、MIRAIの基本方針の1つである「若手研究者の育成」を重視し、シニア研究者による基調講演に加え、若手研究者の口頭発表等が数多く行われました。本学からは、Materials Scienceセッションにおいて、理学研究院の村越 敬教授が基調講演を行い、工学研究院の青木芳尚准教授と工学研究院／ICReDDの北川裕一特任講

師が若手研究者として口頭発表を行いました。また、Sustainabilityセッションでは、理学研究院の高橋幸弘教授による基調講演のほか、若手研究者として、工学研究院の石川志保助教が口頭発表を行いました。

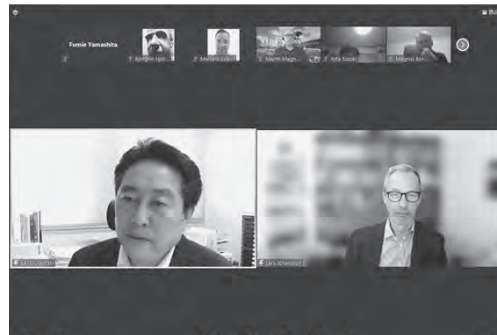
3日目に開催されたLeadership Summitでは、加盟校代表者が“教育”、“研究”、“イノベーション”の3グループに分かれ、それぞれの課題に対して議論を行いました。本学からは横田理事・副学長がイノベーショングループに参加し、本学で研究が進んでいるAI技術や衛星を駆使したスマート農業の社会実装について見解を述べました。

本イベントの総参加者数は670名に上り、成功裏に終了しました。ここで生まれた協力関係やネットワークが今後さらに発展し、具体的な共同研究に繋がっていくことが期待されます。

（国際部国際連携課）



発表する横田理事・副学長



Materials Science セッションでの基調講演で質問に答える村越教授（理学研究院：写真左）



Sustainabilityセッションにて基調講演を行う高橋教授（理学研究院）



Sustainabilityセッションで口頭発表を行う石川助教（工学研究院）

寶金総長、横田理事・副学長が、 IUCA 2021 Presidents' Meetingに出席

本学が加盟する国際コンソーシアム“IUCA (International Universities Climate Alliance)”の2021 Presidents' Meetingがオンラインで開催されました。時差を考慮し、2つのタイムゾーンに分かれて2回開催された本会議には、各加盟校代表者延べ約60名が出席し、本学からは、6月17日(木)に開催された会議に寶金清博総長及び横田 篤理事・副学長が出席しました。

IUCAは、気候変動科学や気候変動の影響、気候変動への適応、変動の緩和などに関して、世界的に信頼できる

情報発信源として、研究に基づく事実を広く提供することを目的に、オーストラリアのニューサウスウェールズ大学を幹事校として2020年4月に発足した国際コンソーシアムで、現在は22カ国から48の機関が加盟しており、本学は2020年11月に日本唯一の加盟校として参画しました。

会議では、2020年活動報告、21年から22年にかけての活動計画発表、活動に関する加盟校からの提案や参加者間での議論に加え、新規加盟校や予算に関する議論や報告が行われました。

会議の最後に本学が新規加盟校として紹介されたことを受け、寶金総長から、開学以来、研究を通じてサステナビリティに取り組んできたことを踏まえて挨拶しました。

IUCAにおいて、既に取り組んでいるアジア地域での活動に加え、今後地域を超えた研究交流に発展していくことが期待されます。

(国際部国際連携課)



Presidents' Meetingの様子(寶金総長、横田理事・副学長:写真上段右から2番目)



挨拶する寶金総長

オンライン配信「KNIT a Network! ロールモデル座談会 大塚賞スペシャル」を開催

本学は、室蘭工業大学、帯広畜産大学、北見工業大学、株式会社アミノアップ、日東電工株式会社と共に、北海道ダイバーシティ研究環境推進ネットワーク（通称：KNIT）として、科学技術人材育成費補助事業（文部科学省）「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」に採択され、北海道地域におけるダイバーシティの推進を目指し、人材育成本部ダイバーシティ研究環境推進室が中心となり様々な取組を行っています。

その一環として、昨年度より、研究開発の分野で活躍する様々なゲストを紹介する『KNIT a Network! 研究者交流会 ロールモデル座談会』のオンライン配信を実施しています。この企画では、ゲストの皆様にキャリアの歩みやライフイベントの経験、仕事内容

などをお話いただいています。

2021年度最初となるロールモデル座談会は、“大塚賞スペシャル”と題して、5月27日（木）に第1回、6月3日（木）に第2回の配信を行いました。

第1回は、大塚賞の名前の由来でもある大塚榮子名誉教授（新渡戸カレッジフェロー）のインタビューを、スタジオゲストに高等教育推進機構新渡戸カレッジ教育研究部の繁富（栗林）香織特任准教授をお招きしてお届けしました。

第2回は、2020年度大塚賞受賞者の中から7名のインタビューをお届けし、延べ視聴者数は96名となり、関心の高さが示されました。

視聴者から集めた事前質問では、博士課程に進学するにあたってのライフイベントに関する不安や、博士号を取

得たらどのようなことができるのかなど、自らの将来に関する質問を多くいただきました。

全2回のインタビュー動画はKNIT WEBサイトに公開しています。大塚名誉教授のお話や、2020年度大塚賞受賞者の皆様の研究や博士課程のお話をぜひご覧ください。

KNIT WEBサイト：

<https://knit.synfoster.hokudai.ac.jp>
ダイバーシティ研究環境推進室

WEBサイト：

<https://reed.synfoster.hokudai.ac.jp>

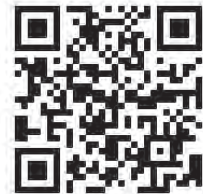
（人材育成本部ダイバーシティ
研究環境推進室）



インタビューを受ける大塚名誉教授



新渡戸カレッジ教育研究部 繁富（栗林）
香織特任准教授とのオンライン配信の様子



大塚賞スペシャルインタビュー動画URL
<https://knit.synfoster.hokudai.ac.jp/article/2624>
インタビュー動画はこちらからご覧ください

■ 部局ニュース

文学研究院FD「学生指導とハラスメント行動をめぐる 本学の現況について」を開催

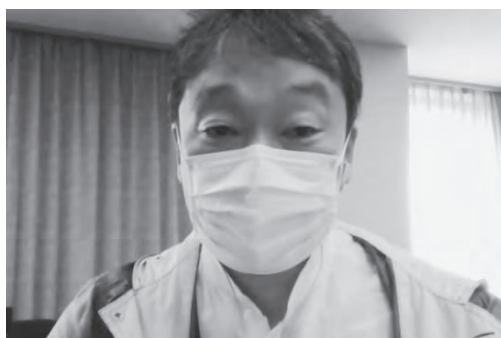
文学研究院では、5月14日（金）、昨年度に引き続き、ハラスメント防止（予防）に係る知見を得るためのFD研修を、Zoomによるオンライン形式で開催しました。講師は、本学のハラスメント相談室で実際の業務に当たられている専門相談員で公認心理師の木村純一氏と、臨床心理士の佐藤直弘氏をむかえ、今回初めての試みとして少人数のオンラインでの「グループミーティング」を行い、質疑応答を含み約1時間にわたり実施しました。

内容は、副題として「～最悪の事態を招かないために教員は何に留意すべきかⅡ～」とし、①令和2年度FDの振り返りと本学におけるハラスメントの定義、②「北海道大学文学研究院 教育・研究指導におけるハラスメント行動防止指針」の紹介、③事例を用いたワーク（個人ワーク、グループワーク、全体共有）、④本日のまとめとハラスメントを避ける指導上の工夫の4節で行われ、特に、今回は事例を用いたワーク（個人、グループ）を実施し

たことで各教員が事例に対してより積極的に、かつ深掘りした意見交換を行い、結果、時間が足りなくなるなど前回よりも参加者主体の熱を帯びた内容となりました。

今回のFDは研究院内の教職員81名がZoomで参加し、4月に着任した教員も参加するなど有意義な場となりました。

（文学研究院）



進行役の文学研究院 川端康弘副研究院長



講師のハラスメント相談室の先生方

本日の内容

1. 令和2年度FDの振り返り
本学におけるハラスメントの定義
2. 北海道大学大学院文学研究院
教育・研究指導におけるハラスメント行動防止指針の紹介
3. 事例を用いたワーク（個人ワーク、グループワーク、全体共有）
4. 本日のまとめ
ハラスメントを避ける指導上の工夫

研修はZoomにより資料を写しだして実施

経済学部が成績優秀者表彰式を挙行

経済学部では、6月24日（木）、人文・社会科学総合教育研究棟において、「経済学部成績優秀者表彰制度」による表彰式を行いました。

同制度は、前年度1年間の履修科目において優秀な成績を修めた学生の中から、経済学部長が学生の模範となるような成績優秀者を選考・表彰するとともに、Dean's List（成績優秀者名簿）

に登載し、末永くその努力と名誉を讃えることを目的としており、今年度は3年次学生10名、4年次学生10名の計20名が受賞しました。

昨年度は新型コロナウイルスの影響により表彰式中止しましたが、今年度は座席の間隔を空ける、室内の換気を十分に行うなどの対策を行い実施しました。

表彰式では、平本 健太学部長から受賞者へ表彰状と副賞が手渡され、祝福の言葉が述べられました。

本学部では、今後も学生の学習意欲向上を促すための取組みを行っていく予定です。

（経済学部）



本年度の受賞者

薬学研究院 原島秀吉教授が国際薬剤師・薬学連合（FIP）の Høst Madsen Medalを受賞

6月24日（木）、薬学研究院の原島秀吉教授が、国際薬剤師・薬学連合（The International Pharmaceutical Federation（FIP）：<https://www.fip.org/>）の最高科学栄誉賞であるHøst Madsen Medal（<https://www.fip.org/awards#Host-Madsen-Medal>）を受賞することが発表されました。9月15日（水）（日本時間午後8時～）、オンラインで授賞式が執り行われ、その際に“MEND: From Controlled Intracellular trafficking to Clinical application for nanomedicines”と題した受賞講演を行います。

FIPは、1912年に設立した薬剤師と薬学研究者の国際組織で、世界保健機関と公式に連携し、146の加盟団体を通じて400万人以上の薬剤師と科学者を束ねています。Høst Madsen Medal

は、薬学の卓越した業績をたたえるため、1年おきに授与されるもので、FIPの最高科学栄誉賞です。

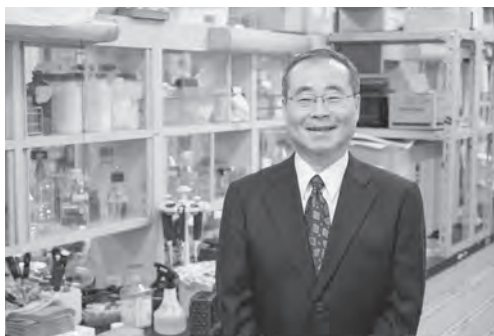
原島教授は、東京大学で薬学を専攻した後、30年以上にわたり、ナノ医薬、遺伝子治療、核酸医薬、ドラッグデリバリーの分野で活躍してきました。現在は、本学薬学研究院の薬剤分子設計学研究室を主宰し、2009年には未来創剤学研究室を立ち上げ、これまでに400以上の論文を発表しています。「多機能性エンベロープ型ナノ構造体」（MEND）を開発し、細胞内の輸送を制御、siRNA/mRNA/pDNAなどの遺伝物質の生体内分布を制御するなど、遺伝子治療や核酸医薬による病気の治療に役立てようとしています。

また、FIPの薬学委員会の委員長であるロス・マッキノン教授は、「原島

教授はドラッグデリバリーシステムの分野で非常に革新的な貢献をしており、名誉あるHøst Madsen Medalの受賞に最もふさわしい人物です」と述べています。

受賞者の原島教授は、「Høst Madsen Medal受賞者のリストを見ると、論文や教科書で目にしたことのある著名な研究者が並んでおり、薬学者として以前から会ってみたいと思っていた方々ばかりです。この栄誉あるメダルを授与されたことは、私にとって思いがけない光栄なことです。これを励みに、科学の世界で新たな挑戦を続けていきたいと思えます」と述べています。

（薬学研究院・薬学部）



原島教授

附属図書館職員が令和3年度国立大学図書館協会賞を受賞

6月25日（金）開催の第68回国立大学図書館協会総会において、本学附属図書館の医系グループ（医学部・保健科学研究所・歯学部・薬学部の図書担当）の「システムティックレビュー作成支援事業」が協会賞を受賞しました。

システムティックレビュー（SR）とは、あるトピックに関する既存の研究成果を漏れなく収集・評価し、一定の結論を出す研究手法です。その成果は学術論文、診療ガイドライン（GL）、医療政策策定などの根拠に用いられています。

本事業では、図書館職員が学内の研究グループに文献検索の専門家として参加し、医中誌WebやPubMedなどの国内外のデータベースでの文献調査を

研究者に代わって網羅的に行うことで、質の高いSRの作成と研究者の負担軽減を目指しています。図書館利用者アンケートに書かれた医学研究科（当時）の教員からの「SRのための文献検索のサポートは可能か？」という一つの質問から始まり、これまでに携わった図書館職員の積極的な取り組みにより安定した業務に成長しました。

平成28年から令和2年9月までに18件のSR・GLの作成に携わり、図書館職員が共著者となっている学術論文（英文）や学会発表もあります。

さらに、本事業を利用された研究者から図書館職員の専門性を高く評価していただくとともに、新たな検索相談、講習会の依頼やハゲタカジャーナ

ル・研究業績指標関連の問い合わせに繋がるなど、研究支援の好循環を生み出しています。

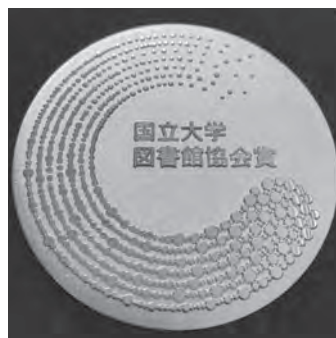
今回の受賞にあたっては、複数の図書室が連携して行う研究支援活動が組織としての事業に位置付けられていること、さらに論文、学会発表、報告資料によって成果が可視化されており、他大学における取組みの参考に資することなどが高く評価されました。

附属図書館では、今後も積み重ねた経験とスキルをチームとして継承し、研究者の「頼もしきパートナー」たる組織作りに努めていきます。

（附属図書館）



受賞した医系グループの職員



記念メダル

2年次学部学科移行生のコミュニケーション環境整備として オンライン交流・歓迎会を実施

5月16日（日）に本学のBCPレベルが2から3へ引き上げとなり、本年度4月に学部学科移行した2年次学部学科移行生は、5月から再びオンライン授業となり、対面によるコミュニケーションがとりにくい環境下となりました。

6月4日（金）、理学部生物科学科（高分子機能学専修分野）では、昨年に引き続き、本年度も2年次学部学科移行生のための学科交流・歓迎会をオンラインツール（Zoom）で開催し、2年・3年生（28名）及び学科担当教員・事務職員（25名）の計53名が参加

しました。

黒川孝幸学科長（高分子）からの挨拶・趣旨説明と2年生の簡単な自己紹介後Zoomのグループ機能を利用して、約5～6名ずつ8つの小グループに分かれ、より親密な交流セッションを設けました。小グループでは、2年生と先輩である3年生、教員が各グループに入り、オンライン授業に関する悩みや感想、コロナの自粛期間が終わったら挑戦したいことなどの会話を弾ませました。グループを入れ替えるごとに別の学生・教員を会話することで、オンラインでも対面と同じように

自然とコミュニケーションが取れていました。

昨年度、本年度とコロナ禍による学生とのコミュニケーション不足が全学的に危惧されています。今回、対面とまではいかずともオンラインツールを活用することで、コミュニケーション不足を補え、学生生活の励みになったと期待しています。今後も状況に合わせて対面やオンラインのコミュニケーションツールを選択しながら、学生の教育環境整備を進める予定です。

（理学部）



オンライン交流・歓迎会の様子

理学研究院・先端生命科学研究院合同FD研修 「米国での大学院システム」について

令和2年3月に高等教育推進機構内に「大学院教育改革ステーション」が設置され、以下の4つの機能を果たしつつ、大学院教育の改革を推進しています。

探査機能（学内外（外国を含む）におけるグッドプラクティスの調査）

調整機能（プログラム基礎部分の共通化やプログラム共通の枠組みの整序）

配分機能（各プログラムへの支援やそれら間の教育資源の最適化）

構築機能（各プログラムに関する補完的あるいは新規の構想立案・プログラム構築）

理学研究院・先端生命科学研究院では、本学の大学院組織や教育内容の改革・変革に備えて、6月17日（木）に合同FD研修を開催し、先端生命科学研究院外国人教員のキング・ダニエル・ルドルフ先生に、出身地である米国での大学院システムの現状について、Zoomを使用し、講演していただきました。総勢55名（理学33名、先端生命22名）が参加しました。

講演では、キング先生が修了されたペンシルベニア州立大学とマサチューセッツ大学の大学院システムや博士課程修了要件などを、ご自身の経験談を

交えながら詳細にご説明頂きました。質疑応答では、日本と米国のシステムのメリット・デメリット、博士課程への進学率向上、博士學位取得後の就職状況等について議論が交わされました。

（理学研究院・先端生命科学研究院）



Zoomによる質疑応答の様子

総合博物館で2020年度ミュージアムマイスター認定式を開催

総合博物館では、本学の全人教育の一環として、学内の様々な部局からご協力いただき、独自の教育プログラム「ミュージアムマイスター認定コース」を2009年度から展開しています。協調性と自主性と備え、課題探求能力とコミュニケーション能力、マネジメント能力を身につけ、自己評価の視点をもった学生を育てることを意図しています。

学芸員を目指す学生に限定するものではなく、本学の学生全員を対象とした教育プログラムであり、学術標本を収集・保存・研究し、多くの市民が来館する総合博物館の資源をフルに活かしています。

本コースでは、博物館に関する基礎知識を身につける「導入科目」、調査研究の方法論を学ぶ「ステップアップ科目」、博物館と社会とのコミュニケーションに関して主としてグループワ

ークを通して実践的に学ぶ「社会体験型科目」という3カテゴリに、授業やプロジェクトを位置づけています。各カテゴリから4クレジット以上取得し、成績基準を満たし、博物館担当教員による最終面談に合格した学生を、総合博物館館長が「ミュージアムマイスター」として認定しています。

2019年度までにミュージアムマイスターに認定された学生は41名であり、その所属は文学部、教育学部、理学院、農学部、工学部、水産学部、そして文学院、環境科学院、理学院、農学院、生命科学院、公共政策大学院、薬学研究院と様々です。認定後は、その能力を活かし、総合博物館の大規模な行事の司会・進行、博物館の出版物への取材協力や記事執筆などを担当し、卒業後は教育機関や博物館、一般企業などで活躍しています。

そして、2020年度末には、文学部の

上村麻里恵さん、理学院の高田健太郎さんと守屋友一朗さんの3名が新たにミュージアムマイスターに認定され、6月9日（水）に総合博物館で認定式を開催しました。小澤丈夫館長から祝辞とコースの意義についてのお言葉が述べられ、認定証が授与されました。3名はそれぞれに、「コースの活動は講義形式のものから社会参画の活動、最終面接に至るまで、どこを取っても学ぶべきところが詰まっていた」、
「コースの中で様々な経験や出会いを得ることができ、それら全てが私にとって大切なものとなりました」、
「コースでは、通常の過程では得ることができない多くの経験をすることができました」と語り、学んだことを今後の研究や生活に活かし、社会に還元していきたいと展望を述べました。

（総合博物館）



左から、上村麻里恵さん、守屋友一朗さん、小澤丈夫館長、高田健太郎さん

■お知らせ

「北海道大学の役職員の給与等の水準（令和2年度）」の概要について

独立行政法人等の役員の報酬等及び職員の給与の水準の公表に関する政府決定等及び国立大学法人等の役員の報酬等及び職員の給与の水準の公表方法等について（ガイドライン）に基づき、本学の役員の報酬等、職員の給与水準及び総人件費について、令和2年度分の概要をお知らせします。

令和2年度における役員の報酬等の支給状況

	役員（法人の長、理事、監事）
年間報酬等の総額	122,327千円

令和2年度における職員の給与水準

	比較対象人員数（注1）	平均年齢	令和2年度 年間給与額（平均）
事務・技術職員	980人	42.1歳	5,722千円
教育職員（大学教員）（注2）	1,131人	50.0歳	8,824千円
医療職員（病院看護師）	382人	41.4歳	5,708千円

注1）「比較対象人員数」は、令和3年4月1日現在、在職している常勤職員（令和2年度途中の採用者及び異動者等を除く。）である。

注2）「教育職員（大学教員）」は、年俸制教員を除く。

総人件費

区 分	令和2年度	令和元年度	比較増△減	
給与、報酬等支給総額（A）（注1）	千円 29,442,337	千円 29,909,505	千円 △467,168	% △1.6
退職手当支給額（B）（注1）	千円 1,222,154	千円 2,228,101	千円 △1,005,947	% △45.1
非常勤役員等給与（C）（注2）	千円 13,659,635	千円 13,191,664	千円 467,971	% 3.5
福利厚生費（D）（注3）	千円 6,331,758	千円 6,269,740	千円 62,018	% 1.0
最広義人件費（A+B+C+D）	千円 50,655,885	千円 51,599,012	千円 △943,127	% △1.8

注1）「給与、報酬等支給総額」及び「退職手当支給額」は、常勤役員及び常勤職員に支払われた報酬（給与）、賞与、その他の手当の総額並びに退職手当の総額である。

注2）「非常勤役員等給与」は、非常勤役員及び非常勤職員等に支払われた給与及び退職手当の総額である。

注3）「福利厚生費」は、全ての役員及び職員（非常勤職員等を含む。）に係る法定福利費と法定外福利費の総額である。

※本概要の詳細については、本学ホームページ（広報・公開、情報公開、法令等に基づく公表事項、その他公表事項）に掲載しています。（<https://www.hokudai.ac.jp/pr/johokokai/pub/other/>）

（総務企画部人事課）

令和2年度北海道大学外国人留学生後援会の決算

「北海道大学外国人留学生後援会」は平成15年4月に発足し、18年が経過しました。

この間、多くの方々に本後援会にご加入いただき、ご協力、ご支援をいただきましたことを本誌面をお借りしてお礼申し上げますとともに、令和2年度決算を報告します。

本後援会は、会員の皆様からの拠出金をもとに、留学生の賃貸住宅入居に伴う連帯保証に係る支援、留学生の入院に伴う連帯保証に係る支援、留学生の疾病等に対する経済的支援、留学生の不測の事故等に対する経済的支援、留学生を支援する団体に対する経済的支援を主な事業として活動しています。

これらの事業を継続的・安定的に運営するために、是非ご加入くださいますよう、また加入口数を増加していただけますようお願い申し上げます。加入についてのお問い合わせは学務部学生支援課をお願いします。

なお、皆様の会費は北大フロンティア基金の寄附金として取り扱うこととなっており、年2千円を超える場合は税法上の優遇措置を受けることができます。

今後とも、皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

(学務部学生支援課)

令和2年度 北海道大学外国人留学生後援会 決算報告書

自) 令和2年4月1日

至) 令和3年3月31日

(単位 円)

1. 収入の部

事 項	予算額	決算額	備 考
前年度からの繰越	48,983,025	48,983,025	
会費	2,100,000	1,971,000	6月期徴収額 995,400 12月期徴収額 975,600
立替払返戻金	0	0	
一時金貸付金返戻金	0	0	
収 入 合 計	51,083,025	50,954,025	

2. 支出の部

(単位 円)

事 項	予算額	決算額	備 考
留学生の賃貸住宅入居に伴う連帯保証に係る支援	1,000,000	0	弁護士相談 0 退去時精算 0
留学生の入院に伴う連帯保証に係る支援	500,000	0	
留学生の疾病等に対する経済的支援	500,000	0	
留学生の不測の事故等に対する経済的支援	7,000,000	0	一時貸付金 0
留学生を支援する団体に対する経済的支援	1,000,000	144,710	特定非営利活動法人SEMIさっぽろ
その他	0	0	
予備費	41,083,025	0	
支 出 合 計	51,083,025	144,710	

3. 差引額

(単位 円)

翌年度に繰越	-	50,809,315	
--------	---	------------	--

博士學位記授与

6月30日（水）に本学大学院研究科等の所定の課程を修了した課程博士は31人、及び本学に学位論文を提出してその審査、試験等に合格した論文博士は8人でした。なお、被授与者の氏名と論文題目等は次のとおりです。

(学務部学務企画課)

課程博士

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者	博士論文名
	氏名	
博士（水産科学）	アランヤカノント Aranyakanont チャック Chak	Studies on the mechanism underlying maturation-inducing steroid production during oocyte maturation in Nile tilapia, <i>Oreochromis niloticus</i> (ナイルティラピア卵成熟誘起ステロイド産生機構に関する研究) 主査：教授 都木 靖彰
	ヘンリー HENRY オケチエウク OKECHUKWU ウジエ UJEH	Study on diets for Japanese medaka fish to reduce cadmium toxicity (カドミウム毒性を低減するためのメダカの食餌に関する研究) 主査：教授 沖野 龍文
博士（環境科学）	ふくはら あきこ 福原 朗子	光音響効果を用いた気体の温室効果を学ぶ実験教材に関する研究 主査：教授 山中 康裕
	レア ヴェグ Lea Vegh	Evaluating the impacts of disturbance scale, management history, and stochastic effects on succession by remote sensing and field surveys (リモートセンシングおよび野外調査による攪乱規模、管理履歴、確率事象が遷移に与える影響の評価) 主査：教授 露崎 史朗
	グオ ジホイ 郭 志慧	Characterization of photoperiodic genes <i>Ghd8</i> and <i>Ghd7</i> on flowering time regulation in a mini-core collection of <i>Miscanthus sinensis</i> (ミニコアコレクションを用いたススキにおける開花期制御に関する日長遺伝子 <i>Ghd8</i> と <i>Ghd7</i> の特徴づけ) 主査：教授 星野 洋一郎
	ラ タ LATA チョウハン CHOUHAN	An investigation of single-particle photoluminescence blinking in halide perovskite nanocrystals and quantum dots (ハライドペロブスカイトナノ結晶と量子ドットにおける単一粒子発光の点滅についての研究) 主査：教授 Biju Vasudevan Pillai
博士（理学）	ダイ ウエイ 戴 維	Long time solution of some types of nonlinear wave equations (種々の非線形波動方程式の長時間解について) 主査：教授 久保 英夫
博士（農学）	オウ エン 王 鄢	中国都市近郊農村における高齢者の自立度と在宅介護－蘇南農村を対象に－ 主査：教授 坂爪 浩史
博士（生命科学）	ノールムハンマド Nour Md モーフイズ ウッディン Mofiz Uddin カーン Khan	Molecular Basis of Ice-binding Mechanism of Microbial Antifreeze Proteins (微生物由来不凍タンパク質の氷結晶結合メカニズムの分子基盤) 主査：客員准教授 近藤 英昌
	ふくしま りょうすけ 福島 綾介	Concentration and Brightness Imaging for Fluorescent Molecules in Cells: Statistical Image Analysis by Empirical Bayes Method (細胞内蛍光分子の濃度と輝度分布定量：経験ベイズ法による統計的画像解析) 主査：教授 金城 政孝
	おおつか かい 大塚 海	Studies on physiological functions and regulatory mechanisms of a newly identified murine testis-specific long noncoding RNA, <i>Start</i> (新規同定されたマウス精巣特異的な長鎖非コードRNA「 <i>Start</i> 」の生理機能ならびに分子基盤解析) 主査：准教授 木村 敦

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者		博 士 論 文 名
	氏 名		
博士（教育学）	ヨシダ 吉田	カヨイ 弥生	過疎地域における地域づくりの集团的主体の形成に関する研究 主査：教授 宮崎 隆志
博士（学術）	リ 李	カク 珏	中国における映画上映の新形態「大象点映」の利用者研究—利用者（オーディエンス）の特徴、満足要因に着目した分析— 主査：教授 辻本 篤
博士（保健）	カタオカ 片岡	ヨシアキ 義明	ウェアラブルセンサを用いた3次元歩行解析システムH-Gaitの運動器障害への臨床応用に関する研究 主査：教授 前島 洋
博士（工学）	つじ 津地	あゆむ 歩	Fuel Regression Characteristics in Stabilized Combustion with Liquid Oxygen (液体酸素での安定燃焼における燃料後退特性) 主査：教授 永田 晴紀
博士（総合化学）	ゆ 愉	ひろき 彦輝	Study on Contribution of Trimethyl Guanosine Synthase Tgs1 to Heterochromatin Formation in Fission Yeast (トリメチルグアノシン合成酵素Tgs1の分裂酵母へテロクロマチン形成での役割に関する研究) 主査：教授 坂口 和靖
博士（経営学）	リン 林	レイケイ 麗桂	職場におけるメンタリングがメンターの学習および仕事の有意味感に与える影響 主査：准教授 阿部 智和
博士（経済学）	ユウ 尤	シンイ 歆惟	価値形態論および貨幣生成論理への再考—宇野経済学における「形態的な同質性」の論理に基づいて— 主査：准教授 斉藤 尚
博士（医学）	はせがわ 長谷川	ゆうた 祐太	肝臓GVHDは、TGF β を介してオルガノイド形成肝臓幹細胞を標的とする (GVHD targets organoid-forming liver stem cells via a TGF- β -dependent manner) 主査：教授 橋野 聡
	まやま 眞山	みちのり 学徳	妊娠高血圧症候群における補体系の関与および臓器障害の指標としての血小板減少についての検討 (Complement activation in preeclampsia and thrombocytopenia as a sign of maternal organ damage) 主査：教授 篠原 信雄
	みやた 宮田	はるか 遙	HLA リガンドーム解析を用いた膀胱癌cancer stem-like cells / cancer initiating cells (CSCs)に発現する癌抗原の研究 (Research of cancer antigens expressed in bladder cancer stem-like cells/cancer initiating cells (CSCs) using HLA ligandome analysis) 主査：准教授 北村 秀光
	しよや 渋谷	かずあき 一陽	肝細胞移植における肝細胞スフェロイドの有用性に関する研究 (The efficacy of hepatocyte spheroid for hepatocyte transplantation) 主査：教授 大場 雄介
	ふじい 藤居	ゆうき 勇貴	膀胱癌肝転移マウスモデルにおける抗メソテリン抗体Amatuximabを用いた新規抗腫瘍療法の開発 (Basic study to develop an innovative anti-neoplastic therapy by using an anti-mesothelin antibody amatuximab in a liver metastasis xenograft mouse model of pancreatic cancer) 主査：教授 平野 聡
	みなとがわ 湊川	ひでき 英樹	上咽頭癌における適応強度変調陽子線治療の有用性に関する線量体積統計解析による研究 (Study on Adaptive Intensity Modulated Proton Therapy for Nasopharyngeal Cancer using Dose Volume Statistical Analysis) 主査：教授 田中 伸哉
	やなぎや 柳谷	しんご 真悟	日本の多職場を対象とした給与所得者における世帯収入と高血圧発症のリスクに関する疫学研究 (Household income and the risk of incident hypertension in employees at multiple workplaces in Japan) 主査：教授 若狭 哲
博士（獣医学）	オーガスティン Augustin	シフワフワ Tshibwabwa	Studies on the control of avian influenza and Newcastle disease (鳥インフルエンザおよびニューカッスル病の制御に関する研究) 主査：教授 高田 礼人

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者	
	氏 名	
博士（文学）	タク 草 ゲンレイ 彦伶	博物館における地域連携活動の社会的効果 －伊丹市昆虫館「鳴く虫と郷町」を対象とした実践事例から－ 主査：教授 佐々木 亨
	チョウ 張 ケイホウ 馨方	改編本『類聚名義抄』の漢字字体の研究 主査：教授 加藤 重広
博士（情報科学）	ポーディ ナモ Podée Namo	A Study on Efficient Rendering of Reflections on Complex Surfaces (複雑な表面における反射の効率的なレンダリングに関する研究) 主査：教授 土橋 宜典
	リ 李 ジュ 杰	Information Dynamics for Complex Ecosystem Prediction and Design (複雑生態系の予測・設計に関する情報ダイナミクス) 主査：教授 大鐘 武雄
博士（工学）	ソン 孫 コウ 浩	高速回転機システムにおける磁気軸受の高付加価値化に関する研究 主査：教授 小笠原 悟司

論文博士

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者	
	氏 名	
博士（法学）	とみやま 富山 ゆみ 侑美	正当化要件としての患者の同意とインフォームド・コンセントー「仮定的同意」の問題を手掛かりとしてー 主査：教授 小名木 明宏
博士（環境科学）	ひろぐち 廣口 あきひろ 寛彦	Molecular genetic studies on <i>Transmembrane Nine 1</i> for rhamnogalacturonan II deposition in <i>Arabidopsis thaliana</i> (ラムノガラクトロンII合成におけるシロイヌナズナ <i>Transmembrane Nine 1</i> の分子遺伝学的研究) 主査：准教授 三輪 京子
	チェン 陳 クワンイー 光奕	Studies on changes in surface/bulk structure and photocatalytic activity of titania powders induced by braying (磨砕による酸化チタン粉末の表面/バルク構造と光触媒活性の変化に関する研究) 主査：教授 大谷 文章
博士（工学）	かとう 加藤 かずお 一夫	流域における土砂・流木の流出現象把握と対策評価に関する研究 主査：教授 清水 康行
	サムナー たまき 圭希	岩盤床河川における侵食地形に関する研究 主査：教授 清水 康行
博士（獣医学）	キン 金 サン 尚昊	Allogeneic peripheral blood stem cell transplantation using nonmyeloablative pretransplant conditioning regimen in dogs (犬における骨髄非破壊的前処置を用いた同種末梢血幹細胞移植に関する研究) 主査：教授 奥村 正裕
	なかた 中田 ほくと 北斗	Assessment of toxicological effects regarding lead exposure and investigation of testing and treatment methods (鉛暴露による毒性影響の評価と検査・治療法の検証) 主査：教授 石塚 真由美
	の だ 野田 ひろし 寛	Studies of potential applications of peptide ligands for the parathyroid hormone/parathyroid hormone-related protein type 1 receptor for therapeutic options of bone and calcium metabolic diseases (I型副甲状腺ホルモン受容体に対するペプチドリガンドの骨とカルシウム代謝疾患への適用可能性に関する研究) 主査：教授 乙黒 兼一

■ 諸会議の開催状況

役員会（令和3年6月7日）

- 協議事項・令和2事業年度決算について
- ・令和2事業年度に係る業務の実績に関する報告書について
 - ・大学機関別認証評価に係る自己評価書について
 - ・全学運用教員の措置について
- 報告事項・北海道大学アイヌ施策検討委員会の設置について
- ・令和2年度資金の運用状況について
 - ・令和2年度病院収支の概要について
-

教育研究評議会（令和3年6月16日）

- 議 題・経営協議会の学外委員について
- ・令和2事業年度に係る業務の実績に関する報告書について
 - ・大学機関別認証評価に係る自己評価書について
- 報告事項・カーボン・ニュートラル達成に向けた大学等コアリションワーキンググループへの参加について
- ・寄附講座等の更新について
-

役員会（令和3年6月21日）

- 議 案・令和2事業年度決算について
- ・令和2事業年度に係る業務の実績に関する報告書について
 - ・大学機関別認証評価に係る自己評価書について
 - ・産学・地域協働推進機構の副機構長の増員について
 - ・令和4年度概算要求施設整備事業について
 - ・諸規則の一部改正について
- 報告事項・令和3年度学長裁量経費について
- ・総長室等事業推進経費について
 - ・令和3年度部局評価配分事業について（令和2年度実績報告及び令和3年度計画）
 - ・役職員の報酬・給与等の水準の公表について
-

※規程の制定、改廃については、「学内規程」欄に掲載しています。

■ 学内規程

国立大学法人北海道大学における人を対象とする医学系研究に関する規程の一部を改正する規程

(令和3年6月16日海大達第105号)

国立大学法人北海道大学臨床研究データ利用許諾規程の一部を改正する規程

(令和3年6月30日海大達第106号)

人を対象とする医学系研究に関する倫理指針にヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針が統合され、令和3年6月30日に人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針が施行されること及び規定を見直すことに伴い、所要の改正を行うとともに、併せて規定の整備を行ったものです。

国立大学法人北海道大学創成研究機構グローバルファシリティセンター分析・加工受託規程の一部を改正する規程

(令和3年7月1日海大達第107号)

創成研究機構グローバルファシリティセンターにおいて、材料分析又は加工に使用する設備を登録することに伴い、所要の改正を行ったものです。

国立大学法人北海道大学における教員の任期に関する規程の一部を改正する規程

(令和3年7月1日海大達第108号)

令和3年7月1日付けで、北極域研究センターに、大学の教員等の任期に関する法律第4条第1項第1号に基づき任期を定めるセンター長付の准教授を置くことに伴い、所要の改正を行ったものです。

国立大学法人北海道大学オープンファシリティ使用規程の一部を改正する規程

(令和3年7月1日海大達第109号)

大学のオープンファシリティについて、設備の登録及び取消を行うことに伴い、所要の改正を行うとともに、併せて規定の整備を行ったものです。

国立大学法人北海道大学原子・分子の顕微イメージングプラットフォーム事業による設備利用規程の一部を改正する規程

(令和3年7月1日海大達第110号)

文部科学省の委託事業である原子・分子の顕微イメージングプラットフォーム事業が終了し、令和3年7月1日から新たに同省の委託事業「顕微イメージングソリューションプラットフォーム事業」を実施すること及び規定を見直すことに伴い、所要の改正を行うとともに、併せて規定の整備を行ったものです。

国立大学法人北海道大学産学・地域協働推進機構規程の一部を改正する規程

(令和3年7月1日海大達第111号)

産学・地域協働推進機構の管理運営体制並びにアントレプレナー教育及びベンチャー育成を強化するため、令和3年7月1日付けで、副機構長の配置数を変更すること、産学連携推進本部の本部長の規定を見直すこと並びに産学連携推進本部に副本部長及び本部長補佐を置くこと並びに部門を新設することに伴い、所要の改正を行うとともに、併せて規定の整備を行ったものです。

■人事

令和3年6月13日付発令

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
【経営協議会委員】 (期間：令和5年6月12日まで)	真 弓 明 彦	北海道電力(株)取締役社長, 北海道経済連合会会長

令和3年6月17日付発令

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
【経営協議会委員】 (期間：令和5年6月16日まで)	土 屋 俊 亮	北海道副知事

令和3年6月24日付発令

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
【経営協議会委員】 (期間：令和5年6月23日まで)	池 山 成 俊	北海道経済産業局長

令和3年6月30日付発令

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
【課長・事務長・室長】 (任期満了)	野 田 卓 司	財務部主計課財務管理室長

令和3年7月1日付発令

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
【総長補佐】 (期間：令和4年3月31日まで)	矢 野 理 香	大学院保健科学研究院教授
【教授】 大学院農学研究院教授 大学院工学研究院教授 大学院情報科学研究院教授 北方生物圏フィールド科学センター教授 北極域研究センター教授	尾之内 均 西 村 聡 野 田 五十樹 揚 妻 直 樹 宇 都 正太郎	大学院農学研究院准教授 大学院工学研究院准教授 (採用) 北方生物圏フィールド科学センター准教授 (採用)
【課長・事務長・室長】 財務部主計課財務管理室長	小 幡 裕 幸	北洋銀行釧路中央支店業務統括部長

新任教授紹介

令和3年7月1日付



農学研究院教授に

おのうち ひとし
尾之内 均 氏

基盤研究部門応用生命科学分野

生年月日

昭和42年 5月26日

最終学歴

名古屋大学大学院理学研究科博士課程後期課程修了（平成7年3月）
博士（理学）（名古屋大学）

専門分野

分子生物学



工学研究院教授に

にしむら さとし
西村 聡 氏

土木工学部門
社会基盤マネジメント分野

生年月日

昭和53年

最終学歴

英国ロンドン大学インペリアルカレッジ土木環境工学科修了（平成18年1月）
Ph.D.（英国ロンドン大学）

専門分野

土質力学，地盤工学



情報科学研究院教授に

のだ いつき
野田 五十樹 氏

情報理工学部門
複合情報工学分野

生年月日

昭和38年 5月15日

最終学歴

京都大学大学院工学研究科博士後期課程修了（平成7年1月）
博士（工学）（京都大学）

専門分野

マルチエージェントシミュレーション，人工知能，
減災情報技術



北方生物圏フィールド
科学センター教授に

あげつま なおき
揚妻 直樹 氏

森林圏研究領域生物多様性分野

最終学歴

京都大学大学院理学研究科博士後期課程修了（平成7年1月）
理学博士（京都大学）

専門分野

哺乳類生態学



北極域研究センター教授に

うと しょうたろう
宇都 正太郎 氏

環境工学研究グループ

生年月日

昭和35年 1月10日

最終学歴

大阪大学大学院工学研究科博士前期課程修了（昭和60年3月）
博士（工学）（大阪大学）

専門分野

船舶海洋流体力学，水工学

新任部課長等紹介

令和3年7月1日付



財務部主計課財務管理室長に

おぼた ひろゆき
小幡 裕幸 氏

昭和46年11月13日生

平成6年3月 北海道大学水産学部卒業
平成6年4月 北洋銀行北野支店
平成9年4月 北洋銀行北見支店
平成12年7月 北洋銀行西野二股支店主査
平成14年4月 北洋銀行人事部主査（融資特別研修）
平成14年5月 北洋銀行藻岩支店主査
平成16年4月 北洋銀行藻岩支店調査役
平成18年8月 北洋銀行北十五条支店調査役
平成21年4月 北洋銀行鳥取支店課長
平成24年4月 北洋銀行地域産業支援部調査役（札幌商工会議所出向）
平成26年4月 北洋銀行手宮支店副支店長
平成29年7月 北洋銀行赤平支店長
平成31年4月 北洋銀行釧路中央支店統括副支店長
令和元年12月 北洋銀行釧路中央支店業務統括部長

訃報

名誉教授 やまもと まさふみ 山本 眞史 氏
(享年71歳)



名誉教授 山本眞史 先生が令和3年4月18日(日)にご逝去されました。ここに生前のご功績を偲び、謹んで哀悼の意を表します。

山本先生は、昭和25年北海道に生まれ、昭和48年3月に本学理学部物理学科を卒業後、同大学大学院理学研究科物理学専攻に進学され、昭和53年3月に理学博士の学位を授与されました。

学位取得後、日本電信電話公社(後に日本電信電話株式会社)にご勤務されました。同社にて厚木電気通信研究所主幹研究員、LSI研究所研究グループリーダー等を務められ、主に、超伝導ジョセフソンデバイスや量子効果デバイスとそれらを用いた回路応用の研究に従事されました。

その後、平成12年4月に本学大学院工学研究科の教授に就任され、平成16年4月、大学院情報科学研究科の発足と共に、同研究科情報エレクトロニクス専攻の教授に着任されました。大学では、専攻長、学務委員、学科長、コース長等の職務を通じ、研究科および学部の運営に貢献されるとともに、学生の教育・指導に熱心に取り組みられ、8名の博士課程修了者を含む60余名の卒業生を社会に送り出されました。研究活動では、次世代の超低消費電力エレクトロニクスに向けた、新しいスピ

ントロニクス材料の開拓とそれらを用いた電子デバイス応用に関する研究を推進され、数多くの業績を残されました。特に、ハーフメタル薄膜材料を用いた強磁性トンネル接合において世界最高位の磁気抵抗比を実証した成果は現在でも国内外で高く評価されています。さらに、応用物理学会をはじめとする各種の学会活動を通じて、学会と社会に貢献され、平成24年には応用物理学会フェローの称号を授与されました。

以上のように、山本先生は教育・研究活動において多大なるご功績を残されました。先生の長年にわたるご貢献に感謝し、ここに謹んで心よりご冥福をお祈り申し上げます。

(情報科学院・情報科学研究院・工学部)

准教授 こはなわ まさし 小華和 柁志 先生
(享年59歳)



准教授 小華和 柁志 先生は、肝臓癌のため、令和3年5月19日(水)にご逝去されました。ここに生前のご功績を偲び、謹んで追悼の意を表します。

小華和先生は、昭和37年3月11日に青森県八戸市に生まれ、同年6月に家族で札幌市へ移住し、札幌北高等学校を卒業後、昭和56年4月に北海道大学医学部医学科に入学されました。同大学を卒業後、平成2年11月には、同大学医学部助手に任用され、学部生の指導等に従事し、平成7年12月に医学部講師に昇任、平成13年4月に同大学医学研究科助教授(現・医学研究院准教授)に昇任されました。

先生のご専門は細菌学であり、医学部細菌学講座の助手として在籍中は、ポリオのモデルとして用いられるタイラーウイルスによるマウス急性脳脊髄炎の感染防御におけるサイトカインの役割の解明に力を入れ、平成6年3月に博士号(医学)を取得しました。さらに、平成11年2月から平成12年2月まで米国シカゴ大学に留学し、研究能力や国際感覚をより一層磨きました。帰国後、益々医学部の微生物学の講義・実習に尽力し、大学院生の指導も積極的に担われました。学会の発表を活発に行われ、多数の学術論文を発表しました。その教育への熱心及び緻密な研究姿勢は細菌学講座の誇りとなっていました。

その後、医学教育推進センター(現・医学教育・国際交流推進センター)に異動され、センターでの教育活動として、学士課程では、ご自身の専門である細菌学のノウハウを活かして、全学教育科目の一般教育演習(感染症と社会、など)、英語演習(中級:重大感染症の端緒論文を読む、など)や多文化交流セミナー(感染症、拠点作りとネットワーク形成のシミュレーション演習)など、熱心に取り組みされてい

ました。医学部教育では、診断学実習の運営、共用試験(CBT/OSCE)の試験会場責任者など務められ、医学生の教育に多大な情熱をお持ちでした。

先生ご自身は、「医学教育の微生物学畑の教育しか経験がありませんのでいまだに悪戦苦闘しています」と謙遜しておられましたが、学士課程教育のみならず、大学院では地域医療学や医学教育研究の領域を中心に修士・博士課程の授業を数多く担当され、さらにがんプロフェッショナル養成基盤推進プラン(地域がん医療)の運営にも貢献されました。医学部教員研修会(FD)の企画運営も手がけられ、長年培われた教育者としての能力を遺憾なく発揮されていました。また対外的にも、北海道教育庁が実施する高校生メディカル講座の講師を担当されました。

このように、先生は、教育活動において非常に重要な役割を担っておられましたので、急逝の報に接し、誠に残念でなりません。謹んでお悔やみを申し上げ、先生のご冥福を心よりお祈りいたします。

(医学院・医学研究院・医学部)

名誉教授 谷口 博 氏
(享年90歳)



名誉教授 谷口 博 先生は、令和3年6月8日（火）にご逝去されました。

谷口先生は、昭和5年12月5日東京都杉並区に生まれ、昭和28年3月に北大工学部機械工学科を卒業後、三菱重工横浜造船所でボイラ設計に携わられ、昭和38年1月北海道大学工学部機械工学科助教授に任用、昭和54年4月

教授に昇任され、熱機関学第一講座を担当し、平成6年3月に定年退官後は、同大学名誉教授となられ、平成13年3月まで北海学園大学教授を勤められました。この間、先生は多くの学生や技術者の指導・教育にあたられるとともに、カリフォルニア大学、ミシガン大学、韓国全北大学、中国精華大学、浙江大学、哈爾濱工業大学等との国際研究交流や留学生受入れにも努められました。

研究面では、火炉内の伝熱解析や熱機関サイクルの効率向上に関し、多くの独創的成果をあげられました。火炉内伝熱解析では、実験式を組み込んだ予測手法しかなかったこの分野に、モンテカルロ法による数値解析を導入し、火炉内の複雑な燃焼場でのガス温度や壁面熱流束の分布を求める手法を確立されました。

また、熱機関サイクルの研究では、

蒸気タービンとヒートポンプを組み合わせた高効率熱供給システムを提案し、地域熱供給プラントとして実用化されました。これらの基礎的学術研究から応用研究までの幅広い研究業績は、学会・産業界から高い評価を受け、空気調和衛生工学会論文賞、日本工業炉協会熱技術賞、日本熱物性学会賞、日本燃焼学会功労賞、米国機械学会燃料燃焼部門賞を受賞するとともに、長年のご功績に対し、北海道科学技術賞、北海道功労賞、瑞宝中綬章を授与されました。

ここに谷口先生の生前のご功績に敬意を表し、多大なるご貢献に感謝申し上げますとともに、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

(工学院・工学研究院・工学部)

令和2年度卒業・修了者の就職等状況一覧

1. 就職等状況

令和3年5月1日現在

学部

	文学部		教育学部		法学部		経済学部		理学部		医学部		歯学部		薬学部		工学部		農学部		獣医学部		水産学部		合計	
	人数(名) (うち女子)	人数(名) (うち女子)	人数(名) (うち女子)	人数(名) (うち女子)	人数(名) (うち女子)	人数(名) (うち女子)	人数(名) (うち女子)	人数(名) (うち女子)	人数(名) (うち女子)	人数(名) (うち女子)	人数(名) (うち女子)	人数(名) (うち女子)	人数(名) (うち女子)	人数(名) (うち女子)	人数(名) (うち女子)	人数(名) (うち女子)	人数(名) (うち女子)	人数(名) (うち女子)	人数(名) (うち女子)	人数(名) (うち女子)	人数(名) (うち女子)	人数(名) (うち女子)	人数(名) (うち女子)	人数(名) (うち女子)	人数(名) (うち女子)	人数(名) (うち女子)
(A) 卒業・修了者数	189 (99)	69 (26)	211 (61)	196 (58)	310 (73)	114 (24)	184 (118)	51 (19)	46 (12)	30 (16)	715 (88)	229 (81)	41 (18)	203 (50)	2,588 (743)											
(B) 就職希望者数	147 (79)	48 (18)	160 (46)	175 (51)	35 (6)	0 (0)	97 (73)	0 (0)	3 (1)	28 (16)	134 (22)	53 (25)	31 (14)	45 (13)	956 (364)											
(C) 就職者数 (内数)；道内就職者 ；有職者	129 (70) 40 (28) 0 (0)	41 (18) 13 (6) 0 (0)	141 (40) 52 (18) 0 (0)	160 (48) 40 (13) 0 (0)	28 (4) 9 (2) 0 (0)	0 (0) 0 (0) 0 (0)	97 (73) 68 (50) 0 (0)	0 (0) 0 (0) 0 (0)	3 (1) 0 (0) 0 (0)	28 (16) 9 (6) 0 (0)	121 (21) 30 (6) 0 (0)	52 (25) 14 (7) 0 (0)	31 (14) 10 (2) 0 (0)	37 (11) 15 (2) 0 (0)	868 (341) 300 (140) 0 (0)											
(D) 就職率(%)	87.8 (88.6)	85.4 (100.0)	88.1 (87.0)	91.4 (94.1)	80.0 (66.7)	-	100.0 (100.0)	-	100.0 (100.0)	-	100.0 (100.0)	98.1 (100.0)	100.0 (100.0)	82.2 (84.6)	90.8 (93.7)											
昨年度の就職率(%)	94.2 (94.1)	100.0 (100.0)	98.2 (100.0)	93.4 (93.9)	72.5 (100.0)	-	100.0 (100.0)	-	100.0	-	94.5 (100.0)	92.6 (89.3)	100.0 (100.0)	100.0 (100.0)	95.2 (97.3)											
(E) 進学者数 (内数)；大学院 ；(本学進学者) ；大学院 ；(本学進学者) ；大学院 ；(本学進学者)	33 (14) 32 (14) 29 (13) 1 (0)	14 (7) 14 (7) 13 (7) 0 (0)	43 (13) 43 (13) 23 (9) 0 (0)	15 (5) 15 (5) 11 (3) 0 (0)	2 (0) 2 (0) 2 (0) 0 (0)	2 (0) 2 (0) 2 (0) 0 (0)	80 (43) 68 (32) 61 (29) 12 (11)	1 (1) 1 (1) 1 (1) 0 (0)	43 (11) 43 (11) 42 (11) 0 (0)	2 (0) 2 (0) 2 (0) 0 (0)	562 (64) 562 (64) 543 (62) 0 (0)	171 (55) 171 (55) 160 (52) 0 (0)	5 (3) 5 (3) 3 (1) 0 (0)	155 (36) 155 (36) 144 (35) 0 (0)	1,355 (312) 1,342 (301) 1,254 (281) 13 (11)											
(F) その他	27 (15)	14 (1)	27 (8)	21 (5)	53 (9)	112 (24)	7 (2)	50 (18)	0 (0)	0 (0)	32 (3)	6 (1)	5 (1)	11 (3)	365 (90)											

※A=C+D+E・D=C÷B×100

※医学部医学科は卒業後2年間、歯学部は卒業後1年間の臨床研修期間がある。

修士課程

	文学部 ・文学 研究科		法学 研究科		情報科学 研究科		情報科学 研究科		水産 科学部		環境 科学部		理学院		農学院		生命科学 部		教育 学院		国際 医療 研究 院		保健 科学 部		工学院		総合 化学 部		経済 学院		医学 部		医 学 院 (公衆衛生学 コース)		医 理 工 学 院		国際 食 資源 学 院		合計	
	人数(名) (うち女子)	人数(名) (うち女子)	人数(名) (うち女子)	人数(名) (うち女子)	人数(名) (うち女子)	人数(名) (うち女子)	人数(名) (うち女子)	人数(名) (うち女子)	人数(名) (うち女子)	人数(名) (うち女子)	人数(名) (うち女子)	人数(名) (うち女子)	人数(名) (うち女子)	人数(名) (うち女子)	人数(名) (うち女子)	人数(名) (うち女子)	人数(名) (うち女子)	人数(名) (うち女子)	人数(名) (うち女子)	人数(名) (うち女子)	人数(名) (うち女子)	人数(名) (うち女子)	人数(名) (うち女子)	人数(名) (うち女子)	人数(名) (うち女子)	人数(名) (うち女子)	人数(名) (うち女子)	人数(名) (うち女子)	人数(名) (うち女子)	人数(名) (うち女子)	人数(名) (うち女子)	人数(名) (うち女子)	人数(名) (うち女子)	人数(名) (うち女子)	人数(名) (うち女子)	人数(名) (うち女子)	人数(名) (うち女子)	人数(名) (うち女子)		
(A) 卒業・修了者数	88 (48)	25 (10)	206 (22)	98 (17)	150 (58)	129 (23)	166 (63)	129 (47)	45 (29)	46 (29)	54 (33)	378 (61)	150 (42)	43 (27)	18 (11)	18 (11)	1 (1)	16 (3)	15 (7)	1,757 (531)																				
(B) 就職希望者数	50 (25)	18 (10)	179 (20)	85 (14)	105 (43)	84 (11)	145 (58)	81 (32)	30 (19)	38 (24)	43 (27)	321 (45)	125 (37)	23 (13)	11 (7)	11 (7)	1 (1)	15 (3)	11 (6)	1,365 (395)																				
(C) 就職者数 (内数)；道内就職者 ；有職者	43 (21) 14 (7) 3 (1)	10 (7) 0 (0) 0 (0)	173 (19) 21 (2) 0 (0)	85 (14) 11 (1) 0 (0)	96 (38) 19 (7) 1 (1)	78 (11) 12 (1) 1 (0)	139 (55) 26 (7) 0 (0)	79 (31) 4 (2) 0 (0)	26 (15) 10 (5) 3 (0)	27 (18) 10 (7) 0 (0)	43 (27) 21 (12) 2 (1)	314 (42) 25 (1) 0 (0)	117 (36) 9 (2) 0 (0)	17 (10) 1 (0) 0 (0)	10 (6) 4 (2) 2 (1)	1 (1) 3 (0) 1 (0)	1 (1) 1 (1) 0 (0)	15 (3) 1 (1) 0 (0)	10 (6) 1 (1) 0 (0)	1,283 (360) 192 (58) 13 (4)																				
(D) 就職率(%)	86.0 (84.0)	55.6 (70.0)	96.6 (95.0)	100.0 (100.0)	91.4 (88.4)	92.9 (100.0)	95.9 (94.8)	97.5 (96.9)	86.7 (78.9)	71.1 (75.0)	100.0 (100.0)	97.8 (93.3)	93.6 (97.3)	73.9 (76.9)	90.9 (85.7)	94.7 (88.9)	100.0 (100.0)	100.0 (100.0)	100.0 (100.0)	94.0 (91.1)																				
昨年度の就職率(%)	80.9 (72.4)	100.0 (100.0)	97.7 (100.0)	99.0 (100.0)	89.9 (90.6)	97.3 (100.0)	98.1 (98.0)	98.9 (97.3)	91.3 (85.7)	63.3 (62.5)	100.0 (100.0)	99.1 (100.0)	97.4 (96.3)	97.0 (95.5)	94.7 (88.9)	100.0 (100.0)	100.0 (100.0)	100.0 (100.0)	100.0 (100.0)	96.1 (92.9)																				
(E) 進学者数 (内数)；大学院 ；(本学進学者) ；大学院 ；(本学進学者)	17 (8) 17 (8) 14 (6) 0 (0)	4 (0) 4 (0) 3 (0) 0 (0)	27 (2) 27 (2) 25 (2) 0 (0)	11 (3) 11 (3) 10 (3) 0 (0)	29 (8) 29 (8) 26 (7) 0 (0)	34 (8) 34 (8) 27 (6) 0 (0)	16 (2) 15 (2) 14 (2) 1 (0)	33 (7) 33 (7) 30 (6) 0 (0)	4 (3) 4 (3) 4 (3) 0 (0)	4 (3) 4 (3) 4 (3) 0 (0)	3 (1) 3 (1) 3 (1) 0 (0)	11 (6) 11 (6) 8 (3) 0 (0)	24 (4) 24 (4) 21 (4) 0 (0)	5 (2) 5 (2) 5 (2) 0 (0)	3 (1) 3 (1) 3 (1) 0 (0)	3 (1) 4 (2) 2 (1) 0 (0)	0 (0) 0 (0) 0 (0) 0 (0)	0 (0) 0 (0) 0 (0) 0 (0)	1 (0) 1 (0) 1 (0) 0 (0)	4 (1) 4 (1) 4 (1) 0 (0)	256 (62) 255 (62) 226 (53) 1 (0)																			
(F) その他	28 (19)	11 (3)	6 (1)	2 (0)	25 (12)	17 (4)	11 (6)	17 (9)	15 (11)	16 (10)	0 (0)	34 (13)	9 (2)	21 (15)	5 (4)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	218 (108)																				

※A=C+D+E・D=C÷B×100

※平成31年(令和元年)4月1日付で、文学研究科、情報科学研究科、情報科学部に改組

専門職大学院

	法科大学院 (法学研究科)	会計専門職大学院 (経済学院)	公共政策大学院 (公共政策学教育部)	合計
	人数(名) (うち女子)	人数(名) (うち女子)	人数(名) (うち女子)	人数(名) (うち女子)
(A) 卒業・修了者数	19 (5)	19 (10)	30 (8)	68 (23)
(B) 就職希望者数	2 (0)	15 (9)	26 (6)	43 (15)
(C) 就職者数	2 (0)	12 (8)	22 (5)	36 (13)
(内数) 道内就職者	1 (0)	3 (1)	15 (3)	19 (4)
有職者	1 (0)	0 (0)	9 (1)	10 (1)
(D) 就職率(%)	100.0	80.0 (88.9)	84.6 (83.3)	83.7 (86.7)
昨年度の就職率(%)	100.0	100.0 (100.0)	96.3 (100.0)	97.5 (100.0)
(E) 進学者数	0 (0)	0 (0)	1 (0)	1 (0)
(内数) 大学院 〔本学進学者数〕	0 (0) 〔0〕	0 (0) 〔0〕	1 (0) 〔0〕	1 (0) 〔0〕
大 学 〔本学進学者数〕	0 (0) 〔0〕	0 (0) 〔0〕	0 (0) 〔0〕	0 (0) 〔0〕
(F) その他	17 (5)	7 (2)	7 (3)	31 (10)

※A=C+D+E・D=C÷B×100
※法科大学院(F)その他には、修了後に実施される司法試験の受験準備者を含む

博士課程

	文学院 ・文学 研究科	法学 研究科	情報科学 院 情報科学 研究科	水産 科学 院 水産 科学 院 研究科	環境 科学 院 環境 科学 院 研究科	理学院	農学院	生命科学 院 生命 科学 院 研究科	教育学院	国際 メディア ・観光 学院 国際 メディア ・観光 学院 研究科	保健 科学 院 保健 科学 院 研究科	工学院	総合 化学 院 総合 化学 院 研究科	経済学院 ・ 経済学 研究科	医学院 ・医学 研究科	医工 学院 医工 学院 研究科	歯学院 ・歯学 研究科	獣医学 院 獣医学 研究科	国際 感染症 学院 国際 感染症 学院 研究科	合計
	人数(名) (うち女子)	人数(名) (うち女子)	人数(名) (うち女子)	人数(名) (うち女子)	人数(名) (うち女子)	人数(名) (うち女子)	人数(名) (うち女子)	人数(名) (うち女子)	人数(名) (うち女子)	人数(名) (うち女子)	人数(名) (うち女子)	人数(名) (うち女子)	人数(名) (うち女子)	人数(名) (うち女子)	人数(名) (うち女子)	人数(名) (うち女子)	人数(名) (うち女子)	人数(名) (うち女子)	人数(名) (うち女子)	人数(名) (うち女子)
(A) 修了者数	27 (10)	6 (1)	40 (6)	15 (7)	33 (17)	46 (6)	35 (9)	40 (9)	11 (6)	12 (5)	8 (5)	70 (15)	38 (12)	8 (2)	65 (18)	6 (1)	21 (12)	19 (11)	12 (4)	512 (156)
うち単位修得退学者数	11 (5)	2 (0)	11 (3)	3 (2)	8 (3)	12 (1)	5 (3)	10 (2)	7 (4)	6 (4)	2 (2)	9 (0)	7 (2)	1 (0)	3 (2)	1 (0)	0 (0)	5 (2)	2 (1)	105 (36)
(B) 就職希望者数	18 (6)	6 (1)	40 (6)	15 (7)	21 (12)	33 (3)	28 (8)	32 (6)	10 (6)	10 (4)	8 (5)	62 (13)	32 (9)	5 (1)	57 (15)	4 (0)	20 (11)	15 (9)	10 (4)	426 (126)
(C) 就職者数	15 (4)	6 (1)	35 (2)	15 (7)	20 (11)	33 (3)	27 (8)	31 (6)	9 (5)	6 (2)	8 (5)	57 (11)	31 (9)	5 (1)	57 (15)	4 (0)	20 (11)	15 (9)	10 (4)	404 (114)
(内数) 道内就職者	7 (1)	5 (1)	9 (1)	6 (2)	9 (5)	8 (0)	7 (3)	13 (0)	4 (2)	1 (1)	6 (5)	16 (0)	4 (2)	1 (0)	54 (14)	2 (0)	16 (9)	8 (4)	4 (1)	180 (51)
有職者	4 (2)	0 (0)	7 (1)	3 (0)	3 (2)	8 (1)	6 (1)	7 (0)	4 (2)	1 (0)	4 (3)	10 (0)	1 (0)	4 (0)	28 (9)	3 (0)	5 (4)	0 (0)	0 (0)	98 (25)
(D) 就職率(%)	83.3 (66.7)	100.0 (100.0)	87.5 (33.3)	100.0 (100.0)	95.2 (91.7)	100.0 (100.0)	96.4 (100.0)	96.9 (100.0)	90.0 (83.3)	60.0 (50.0)	100.0 (100.0)	91.9 (84.6)	96.9 (100.0)	100.0 (100.0)	100.0 (100.0)	100.0 (100.0)	100.0 (100.0)	100.0 (100.0)	100.0 (100.0)	94.8 (90.5)
昨年度の就職率(%)	76.5 (57.1)	100.0 (100.0)	94.7 (66.7)	100.0 (100.0)	100.0 (100.0)	100.0 (100.0)	97.1 (100.0)	97.7 (100.0)	75.0 (50.0)	77.8 (100.0)	80.0 (50.0)	100.0 (100.0)	87.5 (83.3)	100.0 (100.0)	100.0 (100.0)	100.0 (100.0)	100.0 (100.0)	100.0 (100.0)	100.0 (100.0)	96.1 (91.3)
(E) 進学者数	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)
(内数) 大学院 〔本学進学者数〕	0 (0) 〔0〕	0 (0) 〔0〕	0 (0) 〔0〕	0 (0) 〔0〕	1 (0) 〔0〕	0 (0) 〔0〕	0 (0) 〔0〕	0 (0) 〔0〕	0 (0) 〔0〕	0 (0) 〔0〕	0 (0) 〔0〕	0 (0) 〔0〕	0 (0) 〔0〕	0 (0) 〔0〕	0 (0) 〔0〕	0 (0) 〔0〕	0 (0) 〔0〕	0 (0) 〔0〕	0 (0) 〔0〕	1 (0) 〔0〕
大 学 〔本学進学者数〕	0 (0) 〔0〕	0 (0) 〔0〕	0 (0) 〔0〕	0 (0) 〔0〕	0 (0) 〔0〕	0 (0) 〔0〕	0 (0) 〔0〕	0 (0) 〔0〕	0 (0) 〔0〕	0 (0) 〔0〕	0 (0) 〔0〕	0 (0) 〔0〕	0 (0) 〔0〕	0 (0) 〔0〕	0 (0) 〔0〕	0 (0) 〔0〕	0 (0) 〔0〕	0 (0) 〔0〕	0 (0) 〔0〕	0 (0) 〔0〕
(F) その他	12 (6)	0 (0)	5 (4)	0 (0)	12 (6)	13 (3)	8 (1)	9 (3)	2 (1)	6 (3)	0 (0)	13 (4)	7 (3)	3 (1)	8 (3)	2 (1)	1 (1)	4 (2)	2 (0)	107 (42)

※A=C+D+E・D=C÷B×100

※単位修得退学者も便宜上「修了者」として含む

※平成29年4月1日付で経済学研究科、医学研究科、歯学研究科、獣医学研究科は、経済学院、医学院、歯学院、獣医学院に改組

※平成31年(令和元年)4月1日付で、文学研究科、情報科学研究科は、文学院、情報科学院に改組

※生命科学院は、後期課程(生命科学専攻)と、一貫制課程(臨床薬学専攻)がある。

歯学院、獣医学院に改組

経済学院、医学院、情報科学院に改組

歯学院、獣医学院に改組

歯学院、獣医学院に改組

歯学院、獣医学院に改組

歯学院、獣医学院に改組

2. 地域別就職者数

学部

令和3年5月1日現在

企業所在地	学部		文学部	教育学部	法学部	経済学部	理学部	医学部		歯学部	薬学部		工学部	農学部	獣医学部	水産学部	合計
	就職者数	就職者数						医学科	保健学科		薬科学科(4年制)	薬科学科(6年制)					
北海道	札幌市以外	35 (23)	8 (5)	46 (17)	32 (11)	7 (1)	58 (46)	6 (4)	1 (0)	23 (4)	11 (5)	4 (1)	12 (1)	1 (0)	4 (1)	242 (118)	
	青森県	5 (5)	5 (1)	6 (1)	8 (2)	2 (1)	10 (4)	3 (2)	1 (1)	7 (2)	3 (2)	6 (1)	3 (1)	1 (0)	3 (1)	58 (22)	
	岩手県	1 (1)			1 (1)		1 (1)									4 (3)	
	宮城県	3 (3)		2 (1)			2 (2)			1 (0)						0 (0)	
	秋田県															9 (6)	
	山形県				1 (0)										1 (1)	2 (1)	
	福島県			1 (0)												1 (0)	
	茨城県															1 (0)	
	栃木県															2 (2)	
	群馬県															0 (0)	
	埼玉県	2 (2)	2 (0)	1 (0)											2 (1)	1 (1)	
	千葉県	2 (1)	1 (1)	1 (1)			2 (2)			1 (1)					1 (0)	8 (4)	
	東京都	63 (27)	13 (7)	64 (15)	88 (27)	5 (1)	15 (12)	2 (0)	1 (1)	65 (10)	25 (12)	9 (4)	12 (4)	1 (0)	10 (7)	369 (124)	
	神奈川県		2 (1)	3 (0)	5 (2)	1 (0)	2 (2)			5 (0)	4 (2)	4 (2)			22 (7)		
	新潟県			1 (0)						1 (0)	1 (1)					3 (1)	
	富山県	2 (2)	1 (0)	3 (0)	1 (0)	3 (0)				2 (0)						9 (2)	
	石川県	1 (1)	1 (1)	3 (2)		1 (0)				1 (1)						6 (4)	
	福井県									1 (1)						1 (1)	
	山梨県		1 (0)													2 (1)	
	長野県	1 (1)	1 (1)	2 (0)	1 (0)											5 (2)	
	岐阜県	1 (0)														2 (1)	
	静岡県	4 (2)			2 (0)					3 (2)	2 (2)	2 (2)	1 (1)	1 (1)	10 (5)		
	愛知県			5 (2)	4 (1)	1 (0)	1 (1)			1 (0)	2 (2)	2 (2)	16 (8)	16 (8)			
	三重県					1 (1)	1 (1)									2 (1)	
	滋賀県															0 (0)	
	京都府	1 (1)			2 (0)					2 (2)	2 (0)	1 (0)				0 (0)	
	大阪府	1 (0)	1 (1)	6 (1)	8 (2)		2 (0)			4 (0)	2 (0)	1 (0)	2 (1)	2 (1)	31 (6)		
	兵庫県	1 (0)			2 (1)		1 (1)			1 (0)	1 (0)				6 (2)		
	奈良県	1 (0)									1 (0)					2 (0)	
	和歌山県															0 (0)	
	鳥取県															0 (0)	
	島根県															0 (0)	
	岡山県				1 (0)										1 (1)	1 (1)	
	広島県				1 (0)											2 (1)	
	山口県															3 (0)	
	徳島県															0 (0)	
	香川県		1 (1)			1 (0)										3 (3)	
	愛媛県	1 (1)														1 (1)	
	高知県	1 (0)														1 (1)	
	福岡県				1 (0)					1 (0)	1 (1)	1 (1)	1 (1)	1 (1)	5 (2)		
	佐賀県															0 (0)	
	長崎県															1 (0)	
	熊本県				1 (0)											1 (0)	
	大分県															0 (0)	
	宮崎県															1 (1)	
	鹿児島県															0 (0)	
	沖縄県															1 (0)	
	海外															1 (0)	
	就職先詳細不明	2 (0)	5 (0)			5 (0)		2 (1)		2 (0)						16 (1)	
	合計	129 (70)	41 (18)	141 (40)	160 (48)	28 (4)	97 (73)	3 (1)	28 (16)	121 (21)	52 (25)	31 (14)	37 (11)	868 (341)			

※()は女子で内数。

編集メモ

●キャンパスガイドマップをリニューアルし発行！

皆様の協力を得て、6月にキャンパスガイドマップが発行されました。表紙には、北海道大学ビジュアルイメージのエンレイソウをあしらい、学内の施設名称にアイヌ語を併記したり、食堂や購買施設の紹介をしたりするなど、新しい試みを行っています。暑い日差しの下、マップを片手に構内を散策するのはいかがでしょうか。もちろん、熱中症対策も忘れずに。



裏表紙メモ

今月のキャンパス風景は大野池に咲くオオバユスゴマです。池の奥まで歩を進めると、生い茂る草花の中に紫色の美しい姿を見ることができます。構内には、由来や正体がわからない植物も多いのだとか。定期試験や業務の合間に植物を観察すると、素敵な発見があるかもしれませんね。

キャンパス風景 16 大野池（北12条西8丁目付近）



北大時報 ⑦ No.808 令和3年7月発行

北海道大学総務企画部広報課 〒060-0808 札幌市北区北8条西5丁目

TEL：(011) 706-2610 / FAX：(011) 706-2092 / E-mail：kouhou@jimuhokudai.ac.jp

北大時報はインターネットでもご覧いただけます。 <https://www.hokudai.ac.jp/pr/publications/jihou.html>